

パネルディスカッション

「明日のデザインを考える」—ものづくりの哲学・社会とデザイン—



パネラー／左から 西田弘子氏、滝口洋子氏、李 暎一氏、喜多俊之氏 コーディネーター／山内 誠氏、司会／矢澤寿々子氏

コーディネーター：山内 誠氏（日本ファッション協会／TDA会員）

パネラー ：喜多俊之氏（プロダクトデザイナー）

 李 暎一氏（宝塚造形芸術大学 環境トータルデザインコース教授）

 西田弘子氏（ファイバーアートステューディオ代表／TDA会員）

 滝口洋子氏（京都市立芸術大学／TDA会員）

パネルディスカッションはウグイスのような美しい声の矢澤氏の司会・臨機応変楽しい山内氏のコーディネートで和やかに進められた。

Q：何にこだわってものを作っているのか？

喜多俊之氏：ハイテクとハイセンス。日常の暮らしの豊かさが大切である。

李 暎一氏：デザイン力を持つブランドをどうつくるかが重要である。

西田弘子氏：肌に触れる感触、風合いを大切にもの作りをしている。

滝口洋子氏：メッセージ性のあるファッションを創造していくこと。

Q：デザイン教育について。

喜多俊之氏：デザインは素敵な暮らしと素敵な社会の中で育まれる。まず、家でのきちっとした普通のくらしが必要である。

李 暎一氏：使い手・製造者・デザイナーの3者のコラボで、ものは作られているので、コミュニケーション能力が必要である。

西田弘子氏：デザイナーはもっと、もの作りの現場を知ることが重要である。

滝口洋子氏：行き交う多くの情報を自分というフィルターを通して整理し、自信をもって、オリジナルを主張することが大切です。

等・・・それぞれの立場から活発に意見が述べられた。そして最後に、聴講者から、地場産業に携わっている積極的な現場の声も聞かれ、パネルディスカッションの幕を閉じた。 （内丸 もと子）